

リモート診療の拡充を求める要望書

令和2年6月15日

日本性同一性障害・性別違和と共に生きる人々の会

代表 山本 蘭



日本精神神経学会 理事長 神庭重信 様

日本精神神経学会性同一性障害に関する委員会 委員長 太田順一郎 様

【要望の要旨】

1. WEB会議システムなどを用いた、オンライン診療の拡充
2. オンラインでの処方箋の受付・発行
3. オンライン診療可能な医療機関によるオンライン診療を行っていない医療機関からの患者の受入れ

【要望の理由】

平素は、性同一性障害の問題にご尽力いただき、心より御礼申し上げます。また新型コロナウイルス感染が拡大するなか、医療従事者の皆様の日夜の活動に敬意を表します。

私たちは、性同一性障害の当事者団体です。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大により、外出自粛の要請や一部クリニックでの受診制限などが行われた結果、少なくない当事者が影響を受けています。

通院している医療機関が遠方で長時間の移動を伴うことにより、感染のリスクも高くなり、さらに、感染した際の追跡調査や発表方法、医療を受ける際の扱いについても不安があります。

Team Respec and Solidarity という市民団体が行った調査では、治療が中断してしまったという声が496人中21人も存在しています。

現在、新型コロナウイルス感染は収束に向かいつつありますが、今後第二波、第三波が襲ってくることは十分予想されます。

そのため、外出せずに診療を受けることができるよう、インターネットを用いたオンラインでの診察や処方箋の発行ができる体制の拡充を、ぜひ各医療機関に働きかけていただけるようお願いいたします。

特に最近ではZoomやGoogle meetなど手軽で安価に利用できるビデオ会話システムが普及しています。患者側もスマートフォンを利用すれば設備への負担はほぼなくて済みます。

インフラは整っており、実施への障害は少ないと推察されます。

また、こうしたオンライン診療を導入した医療機関は、導入が遅れている医療機関からの患者も積極的に受け入れていただけるよう要望いたします。

性同一性障害・性別違和を持つ当事者が安心して医療を受け続けることができるように本要望をご検討いただき、ご助力いただきたくお願い申し上げます。